

第7学年 美術科 学習構想案

日 時 令和7年7月17日（木）第6校時
場 所 美術室
指導者 教諭 椎葉 希映

1 単元構想

単元名	「安全と色 マークに示す」（秀学社 美術資料熊本の美術 P9）
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
見た人に分かりやすく伝える色の働きについて、色彩の基本的な仕組みや配色の効果をもとに考え、自身の制作に落とし込もうとする生徒	
単元を通した学習課題	本単元で働かせる見方・考え方
誰が見ても分かりやすい配色は、どのように決めればよいだろうか。	カラーユニバーサルデザインやJIS安全色に着目し、より多くの人に情報が伝わる配色について考え、自身の制作に落とし込むこと。

2 本時の学習

- (1) 目標 多くの人に情報が伝わる配色について知り、自身の制作につなげることができる。
(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ。 ①これまでの色彩の学習を振り返る。 ②2種類のピクトグラムを見て、配色の工夫について考える。	○色の組み合わせによって視認性が異なることを押さえ、学習課題に繋げる。
展開	37分	【学習課題】 見る人に分かりやすく伝える配色はどのように決まっているのだろうか？	
		2 課題の解決に向けて活動する。 【めあて】 多くの人に情報が伝わる配色を考え、マークに示そう。 ①カラーユニバーサルデザインについて知る。 ②ピクトグラムの配色を考える。 (共通実践事項1) ③友達と意見を交流する。 (共通実践事項2) ④配色を練り直す。 【期待される学びの姿】 色づかいに配慮したデザインについて理解するとともに、自身の作品にどのように生かせるか考えながら制作をしている。 ⑤友達の作品を鑑賞する。	○色は人によって見え方が異なることを押さえ、色使いに配慮したデザインの工夫があることに気付かせる。 ○Googleスライドを活用し、ピクトグラムの配色を考えさせることで、何回も繰り返し試すことができ自分の考えを深めることができるようにする。 ○友達の見解を聞くことで自身の作品を客観視し、作品の完成度を高める。 【具体の評価規準】 技(スライド) ○カラーユニバーサルデザインやJIS安全色の理論をもとに、配色を決めている。 態(ワークシート・観察) ○自分なりの意見や感想をもち、積極的に発言し、意欲的に制作に取り組んでいる。 【到達していない児童への手立て】 ○ペアワークでの意見を参考にするとともに、机間指導及び視聴覚資料を提示して授業への理解を促す。 ○色のシュミレーターを使い、様々な人の視点から作品がどのような見え方をしているか確認する。
終末	8分	3 学習を振り返る。 【まとめ】 JIS安全色の基準に従って、視認性が高く見やすいように調整されている。 ○今日の振り返りをする。 (共通実践事項3)	○振り返りの視点①③

3 指導に当たっての留意点

- 【視点1】「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫」
 手立て2：子供が問いをもち、主体的に学ぼうとするための資料提示や課題設定の工夫
 ○配色の異なるピクトグラムを提示し比較させることで、単元の学習課題につながるようにする。